

平成 26 年度 公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター

# 発掘調査速報会



平成 26 年 12 月 14 日 (日)

山形市 遊学館 (県立図書館) 2 階ホール

主催 公益財団法人山形県埋蔵文化財センター

共催 山形県教育委員会



## 次 第

開 場 12:00

開 会 13:00

挨 拶

平成26年度調査事業の概要説明

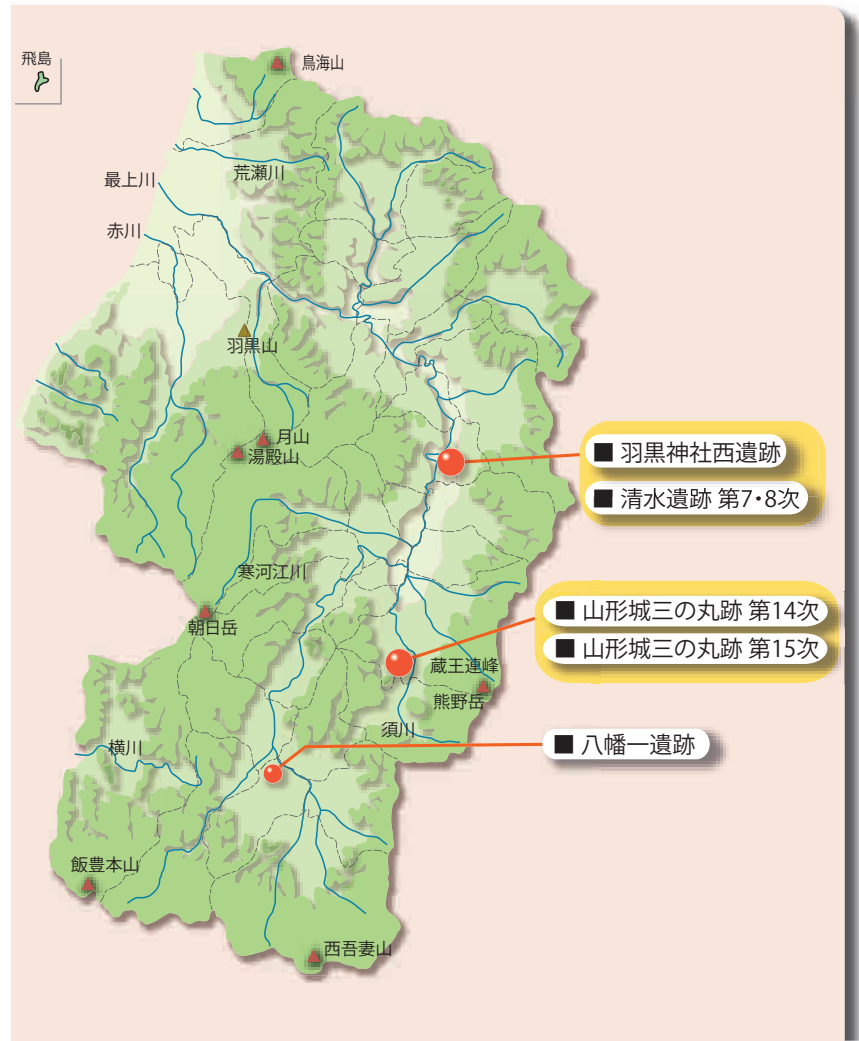
調査報告 13:20 ~

- 1) はぐろじんじやにし 羽黒神社西遺跡
- 2) しず 清水遺跡 第7・8次
- 3) やわたいち 八幡一遺跡

休憩・出土品見学

- 4) やまがたじょうさん まるあと 山形城三の丸跡 第14次
- 5) やまがたじょうさん まるあと 山形城三の丸跡 第15次
- 6) 福島県復興事業報告
- 7) 質疑応答

閉 会 16:10



## 平成26年度 山形県内発掘調査遺跡一覧

遺跡名	所在地	時代	種別	調査面積 (4月当初)	起回事業
1 清水遺跡	第7次 村山市名取	縄文・奈良・平安	集落跡	1,100㎡	東北中央自動車道(東根～尾花沢)
	第8次 村山市名取	縄文・奈良・平安	集落跡	3,100㎡	一般県道村山大石田線村山北IC設置工事
2 羽黒神社西遺跡	村山市名取	縄文	集落跡	4,300㎡	東北中央自動車道(東根～尾花沢)
3 山形城三の丸跡 第14次	山形市旅籠町・城北町	奈良・平安・中世・近世	集落跡・城館跡	4,500㎡	一般国道112号霞城改良
4 山形城三の丸跡 第15次	山形市旅籠町・七日町	奈良・平安・中世・近世	集落跡・城館跡	1,873㎡	山形広域都市計画道路事業3・2・5号旅籠町八日町線
5 八幡一遺跡	川西町西大塚	奈良・平安・中世・近世	集落跡	9,900㎡	一般国道113号梨郷道路

表紙写真

上：左（山形城三の丸跡第15次：調査風景） 中（八幡一遺跡：調査風景） 右（清水遺跡7次：竪穴住居の土器出土状況）

中：左（八幡一遺跡：木枠組の井戸跡） 中（山形城三の丸跡第14次：石組・木組の井戸跡） 右（山形城三の丸跡第14次：陶磁器出土状況）

下：左（羽黒神社西遺跡：縄文土器出土状況） 右（八幡一遺跡：刻書土器出土状況）



羽黒神社西遺跡は、村山市の名取字清水<sup>しみず</sup>にあります。遺跡は、河島山丘陵の東側に張り出した舌状の丘陵地に位置しています。

今回の調査は、東北中央道建設工事に伴い、遺物が採集できる範囲、約 4,300㎡の調査となります。事前の試掘調査では、縄文中期の土器（大木 8b 式）が多量に発見されており、そのことから、本遺跡は、縄文時代中期<sup>だいき</sup>の集落跡などの性格であることが予想されました。

調査では、縄文時代中期（約 5,000 年前）を中心とする遺物が大量に発見されました。出土した土器のほとんどは、大木 8b 式という土器型式に当てはまるものばかりであることから、中期の中ごろのごく短期間の遺跡と言えます。また、特に調査区のうち、東側の南斜面（3 区）と北斜面（4 区）に、大量の中期の土器片や石器など集中して出土する傾向がありました。

発見された遺構は、10cm 程度の石で囲った石囲い炉 1 基と石で囲った内側に土器片を敷き詰めた土器敷き石囲い炉 1 基、径 1.5m で深さ約 2m のフラスコ状土坑 4 基、径約 1m で深さ約 1.5m の<sup>おと</sup><sup>あな</sup>陥し穴 1 基です。また、土を埋め立てて整地した痕跡も発見されました。来年度以降に、調査区東側を精査する予定ですので、今後遺構の分布状況がより明らかになると思われます。

発見された遺物は、大量の土器片とともに、大きな石皿<sup>すりいし</sup>、磨石<sup>た</sup>、<sup>いた</sup>、<sup>いし</sup>、<sup>いし</sup>、<sup>いし</sup>といった礫石器のほか、磨製石斧と、石鏃<sup>ませいせきふ</sup>や石匙<sup>せきぞく</sup>などの打製石器です。大量の土器に比べて、打製石器が少ないことも特徴的です。遺跡の近隣で石器の材料となる珪質頁岩<sup>けいしつげつがん</sup>が採れないことが原因と考えられます。

土器は、深鉢形や浅鉢形、大きさもかなり



4 区 2 層遺物出土状況



4 区 2 層出土の土偶



3 区 2 層検出の石囲い炉

大型のものからミニチュアなものまであります。土偶は、5 体あるいは 6 体発見されました。そのうち 1 体は、完全な形に復元できます。ほかには、大型で精巧な文様が施された土偶<sup>どぐう</sup>の脚部や腰部もあります。また、土偶以外には、袋状土製品も出土しました。

このほか、中期の遺物が出る地層よりも下の地層からは、より古い縄文時代早期の押型文土器<sup>じょうこんもんどき</sup>や条痕文土器などの遺物が出土しました。また、わずかながら、古代の須恵器や砥石も発見されました。

(大場正善)



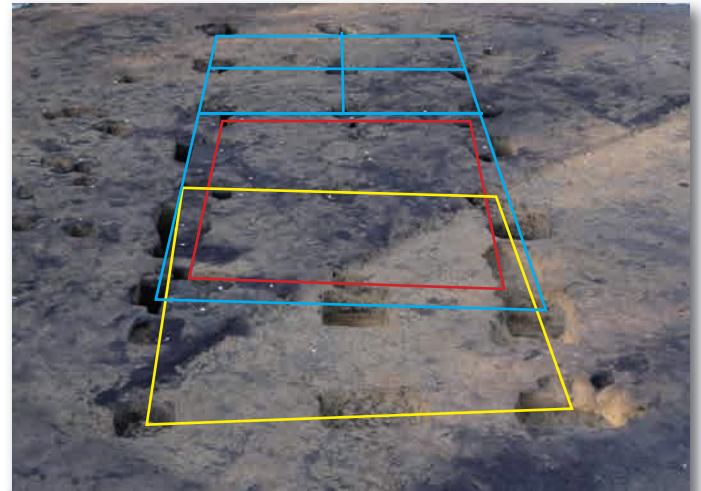
清水遺跡は、村山市東部の最上川が蛇行する右岸部の清水地区のなだらかな丘陵の東斜面上に位置する縄文時代と平安時代の広大な遺跡です。

平成22・23年度に清水遺跡(1)～(4)の地区に分け第1～6次調査を行いました。今年度はその清水遺跡(1)～(3)の未調査区及び追加IC部分の調査を行いました。

清水遺跡旧(1)地区の狭い調査区からは2棟の竪穴住居跡が検出されました。南東隅にカマドが造られ、蓋、甕、甕の他にミニチュア土器など多くの遺物が出土しました。

清水旧(2)地区では、東側の調査区から重複した竪穴住居跡や竪穴建物跡などが見つかりました。清水遺跡旧(3)地区では、縄文時代の陥し穴と平成23年度に確認されていた掘立柱建物群と区画溝の続きが東西の調査区で見つかり、さらに西側に広がるのが分かりました。遺物も土師器と須恵器の他、墨書土器などが出土しました。

今回までの調査結果から、清水遺跡の丘陵は、縄文時代には狩猟の場として機能し、8世紀末頃から集落が営まれ、9世紀には、各



2間×3間(黄)、2×5間の側柱・総柱(青)、2間×2間(赤)の建物計3棟の建て替えがあります。

地点に集落が点在したと考えられます。南には丘陵部に住居が並び、低地に構築した溝を灌漑や排水に利用した集落が存在し、北には、丘陵斜面上に住居や掘立柱建物跡を建てた集落、さらに隣接して北に、溝で区画した建物群が立ち並んでいたと推測されます。建物や住居の重複と、出土遺物から、短い期間での変遷が窺え、堆積していた火山灰から10世紀初頭には、各集落は廃絶していたと思われます。(氏家信行)



清水遺跡旧(1)調査区です。Y字の狭い調査区から2棟の竪穴住居跡が見つかりました。手前の住居は南東隅にカマドが造られています。



清水遺跡旧(3)調査区の全景写真です。今年度は、東北中央道の東西に付くスマートIC部分を調査しました。西側に多くの建物跡があります。

# 山形城三の丸跡第 14 次

一三の丸北西端に残る  
最上氏時代の痕跡一

山形市

山形城三の丸跡の第 14 次調査は、三の丸北西側の国道 112 号に沿った区域を、市街地の区画毎に 7 箇所の調査区（B・I～L・N・O 区）に分けて行いました。

遺構が確認出来る土の面からは、奈良・平安時代から近世・近代まで、各時代の遺構や遺物が検出され、人々がこの地に長い期間にわたって暮らしてきた様子がわかりました。遺構が最も多く検出されたのは、K 区とした調査区で、近世の井戸跡と思われる石組み施設が検出されました。また西隣の L 区とした調査区では、石を組んだ施設内（長径 240cm）に瓦が大量に投げ込まれていました。総数 390 点のうち、最上義光が山形城を大規模改修した頃（16 世紀末～17 世紀初頭）の様式の軒丸瓦、軒平瓦が含まれていました。その他の瓦も大部分が江戸時代中頃までの様式で、三の丸北西端に当たる地域の武家屋敷が取り壊され、必要なくなった瓦が捨てられたと考えられます。

遺物としては、16 世紀末～17 世紀初頭に佐賀県の唐津で焼かれた陶器類が出土しました。中には完全な形のものも含まれており、最上氏の時代に関係した遺物と思われま



調査区の北西側の L 区から、大量の瓦が投げ込まれた石組み施設が検出されました。

す。また金箔を貼った痕跡を残す瓦の破片も出土しました。

江戸時代には武家屋敷となっていた一帯は、古代から既にある程度の規模の集落が存在しており、そうした集落を基盤に城下町が形成され、近代の山形市街地につながったと考えられます。今回調査した三の丸跡の北西側は、16 世紀末～17 世紀の遺物が多く出土したことから、比較的古い時期に田畑となったため、後世の開発があまり進まなかったと考えられます。（小林圭一）



K 区で検出された近世の石組み施設で、中央が四角形に木材で囲まれており、井戸跡であったと考えられます。



N 区で出土した金箔瓦です。表面の金色の粒々が金箔を貼った痕跡と考えられます。



# 山形城三の丸跡第 15 次 —三の丸大手門周辺— 山 形 市

山形城は、斯波兼頼によって築かれたとされる城郭で、約 400 年前に最上義光が大拡張工事を行い、全国でも有数の規模を誇り現在の山形市街地の原型が作られました。

しかし最上氏改易後、山形藩は頻繁に藩主が国替えになったり石高が小さな大名が入府するようになり、しだいに三の丸に空き地や畑が目立つようになりますが、三の丸大手門から二の丸大手門にかけての地区は、最後まで武家屋敷が立ち並んでいました。

今回の調査では、三の丸大手門周辺を南北に横断するように調査区が設定されました。調査区は、北から順番に 1～6 区と命名し、調査は南の 6 区から始めました。

調査区全体の傾向としては、鉄筋コンクリートの建造物が建っていた場所は、基礎工事で攪乱を受けているので、遺構の残り具合はよくありませんでしたが、6 区では時期不明の井戸跡と河川跡から平安時代の土器が出土しました。

5 区と 1 区は遺構の残存状況が良好でした。5 区からは、南北方向の大きな区画溝が検出されています。掘った後に壁面を砂で固めて整形していたこともわかりました。ま



5 区区画溝完掘状況。南北方向に伸びています。幅 4m、深さ 1 m ほどです。

た、遺物が一切出土しておらず、一気に埋め立てられており、短期間の存続後に大きな区画整理によって廃絶したようです。城絵図等には見られない溝なので、いつの時期のものかは不明です。

2 区では、現地表面より約 2m ほど深くなり、南端で立ち上がりを確認しました。埋まっている遺物も明治以降のもので、予想より浅いものの三の丸の堀と判断しました。来年度以降再調査を行い、詳細を確認記録します。

(齋藤健)



5 区の石組の井戸。江戸時代の末に作られたようですが、明治時代まで使われていたようです。



5 区溝跡から出土した瓦です。軒丸瓦には巴紋ともえが  
ついていました。



八幡一遺跡は、米沢盆地を北流する最上川が形成した河岸段丘の北側に位置しています。遺跡の主な時代は、平安時代や中世と考えられますが、出土遺物には縄文時代から近世までのものが含まれています。

調査区の中央部で、東西に伸びる旧河道が見つかりました。かつては水が流れており、西側に流れる元宿川へ合流したもののようです。やがて水の流れは途絶え湿地に変わりました。内部からは古代・中世の遺物が出土していますが、この湿地の中で使用されたものではなく、調査区の南北にある微高地上から廃棄されたものと考えられます。この旧河道の北端から大変興味深い遺物が出土しており、調査区の北側に未発見の重要な遺跡が存在していることが予測されます。

出土した9世紀前半に属する須恵器の小型壺の底部には、『佛法為』と刻まれていました(写真：左)。この小型壺は水瓶、あるいは浄瓶じょうびょうという仏具であると考えられます。佛法とは仏教と同義であり、仏教を信仰する人々が使用していたものでしょう。また、滑石製石鍋かつせき いしなべ(13世紀)は、北部九州で生産され、西日本と鎌倉から数多く出土しています。本遺跡のものは県内では3例目となり、鎌倉幕府との関連を予想させるものです。

ほかには、縄文時代の石鏃、弥生時代のふとがたはまぐりふとがたはまぐりばせきばせき斧、古墳時代の土器、古代の土器や素掘りの井戸、中世の木製井戸枠をもつ井戸

(写真：右下) や板碑いたび、陶器、青磁、近世の木棺墓もつかんぼなどがみつかっています。

調査区内で見つかった遺構・遺物は多くはありませんが、調査区の北側に重要な遺跡が存在していることを示す資料が見つかったことが大きな成果と言えます。(水戸部秀樹)



調査区の中央部に旧河道があり、その両側に井戸や土坑などが検出されました。



木製の井戸枠の中から曲物や陶器が出土しました。



底部に「佛法為」と刻まれた須恵器の小型壺



# 福島県復興事業報告について

東日本大震災から3年9カ月がたち、被災地では復興のための様々な工事が急ピッチで進められています。その一方、大規模な復興事業に伴い、多くの埋蔵文化財の調査が必要となりました。復興を円滑に進めるためにも、現地の専門職員だけでなく、全国の教育委員会や埋蔵文化財センターの専門職員が応援に派遣され、埋蔵文化財の調査に従事しています。被災地に派遣された専門職員は、平成24年度で30名ほど、復興事業が本格化した平成25年度と平成26年度は60名を超える職員が現地に勤務しています。

当センターからは、平成25年度から福島県文化振興財団に職員を派遣し、福島県内の復興事業に従事しています。今年度の福島県には、県教育委員会、文化振興財団にあわせて11名の職員が全国から派遣され、県内の職員とともに調査にあたっています。

福島県の主な復興事業は、被災地を含む復興支援のための道路整備、津波被害を受けた農地の再整備、住宅の高台移転などがあり、それらに伴い埋蔵文化財の調査を実施しています。

天化沢<sup>てんかざわ</sup>A遺跡は、南相馬市の農地の再整備のための土砂採取に伴い調査されました。遺跡の中心をなすのは、古代の鉄づくりにかかわる施設で、製鉄炉<sup>せいてつ</sup>や燃料となる炭をつくる木炭窯などが、複雑に入り組んだ丘陵の斜



面につくられていました。このような製鉄遺跡は、他の復興事業に伴う調査でも発見されています。

仙台と東京を結ぶ常磐自動車道の建設に伴い調査された南狼沢<sup>みなみおいざわ</sup>A遺跡は、宮城県との県境の新地町に立地する遺跡で、平安時代の終わりごろから鎌倉時代のはじめにかけての製鉄炉を発見しました。この時期の製鉄遺跡は、福島県では発見例がなく、製鉄炉の形や



製鉄炉調査風景 画面左側の窪みは、炉に風を送る「ふいご」の跡。人がいる右側の黒いしみが炉本体。(天化沢A遺跡)



送風装置など、先の天化沢A遺跡などの古代の製鉄との比較が注目されます。このような製鉄遺跡は、山形県など他県においては、めったに発見されるものではありませんが、福島県の浜通りには、数多く分布しています。これは鉄づくりの原料になる砂鉄が浜通りの砂浜で容易に採取することができるためであり、古代において同地域は、製鉄工房の集積地だったと考えられます。

他にも、災害公営住宅など住宅の高台移転で調査された遺跡では、南相馬市の東町遺跡から、わずかな面積に縄文時代の住居跡が数十軒もひしめき合い、大集落の一端

をうかがわせます。住居跡からは、東北南部に特徴的な「複式炉」を備えたものが数多く発見されています。

また、広野町の桜田IV遺跡からは、古代の集落跡が発見され、その中でも規格的に並ぶ建物群は、古代の街道沿いに設置された「駅家」の可能性を示唆するものではないかと注目されます。遺跡では、地元中学生らによる体験発掘や現地説明会などが行われ、緊急性の高い復興事業に伴う調査ながらも、住宅移転計画は一部見直され、建物跡の密集する区間は、公園として整備し、保存されることとなりました。



規格的な建物群人が立っているのが建物の柱穴跡。直線的に4棟並んでいるのがわかります。(桜田IV遺跡)

このように、復興事業に伴い様々な遺跡が発掘され、多くの成果を得ています。これらの遺跡は、その土地の自然環境や歴史的背景によって営まれたものであり、その土地の記憶、人々の暮らしの結晶です。いずれも福島の歴史を語る上で、欠かすことのできない重要な成果を得たといえるでしょう。これらによって、地域の人々が連帯感を強め、郷土に対する思いをあらためて実感していただけたなら、担当職員として幸いです。

福島県は津波被害だけでなく、原発事故の影響もあり、未だ立ち入りさえできない場所も少なくありません。震災によって多くを失った方々の胸中は、察するに余りあるものがあります。私たち埋蔵文化財担当職員は、発掘された文化財が少しでも地域のみなさんを勇気づけるものとなるよう日々の業務に励んでいます。今後とも県民の皆様には埋蔵文化財に対するご理解と、ご支援を賜りますようお願いいたします。

(天本昌希)

# 遺跡の調査について

埋蔵文化財センターの発掘調査について紹介します。  
写真は、去年～今年度行われた発掘・整理の様子です。  
一口に発掘調査と言っても、いろいろな工程があります。  
みなさんも、ぜひ間近でご覧になってください。



1 機材搬入 上山市の埋蔵文化財センターから発掘調査に使用する機材を運んできます。



2 オリエンテーション 発掘調査についての注意事項・約束事・諸手続き等を説明します。



3 調査区設定 発掘を行う区域を設定します。周囲を掘って、遺跡の深さを確認する場合があります。



4 表土除去 遺跡を覆う表土を取り除きます。深さは遺跡によって様々です。



5 面整理 ジョレンなどを使って地面を削り、土の色や質の違う「遺構」を見つけていきます。



6 遺構検出 見つかった遺構に白線を引いてわかりやすくします。





7 遺構精査 面整理で見つかった遺構を、移植ペラなどを使って少しずつ掘っていきます。



8 遺構精査 土の埋まり方を確認するため、遺構の半分だけ掘り下げる場合もあります。



9 写真撮影 写真による記録作業です。ラジコンヘリコプターで上空から撮影したりもします。



10 遺構実測 図面への記録作業です。ここでは、井戸跡の平面図を記録しています。



11 調査説明会 調査の終盤には、現地において調査説明会を開きます。



12 機材撤収 機材を撤収し、現場での調査は終了になります。お疲れ様でした。



13 整理作業 発掘が終われば、調査報告書刊行に向けて、センターで整理作業を行います。



14 出前授業などでの活用 発掘調査で出土した遺物や整理作業で分かったことを、普及啓発事業に活用します。

# 山形の遺跡と日本・世界の歴史

年代	時代	●:26年度発掘調査遺跡	県内の主な遺跡	山形の歴史	日本の歴史	世界の歴史	
BC30000年	旧石器時代		上屋地 (飯豊町) 清水西 (村山市) 越中山 (鶴岡市) 小国東山 (小国町)	山形県に人が住みつき、県内で産出する良質な頁岩で作られたナイフを使う	日本列島に人が住みつき石器を使って狩猟などをして生活する	原人 旧人 新人	
BC11000年	縄文時代	草創期	日向洞窟 (高島町) 火箱岩洞窟 (高島町) 大立洞窟 (高島町)		隆起線文土器を使う人が日向洞窟などで生活を始める	弓矢がつかわれだす 土器づくりがはじまる	農耕牧畜が起る
		早期	にひやく寺 (山形市) 北原4 (村山市)	いるかい (尾花沢市) 坂ノ上 (山形市)	竪穴住居による小集落が形成される	縄文海進が進む 漁撈活動が盛んになる	
		前期	高瀬山 (寒河江市) 押出 (高島町)	小林A (東根市) 吹浦 (遊佐町)	漆を使って文様を描いた土器がつけられる	落葉広葉樹林が広がる 磨石・石皿・凹石が多くなる	エーゲ文明始まる
		中期	西ノ前 (舟形町) 小反 (鮭川村) 空沢 (長井市) 小平4 (酒田市) 高瀬山 (寒河江市) ●羽黒神社西 (村山市)	中川原C (新庄市) 西海淵 (村山市) 西向 (鶴岡市) 野新田 (鶴岡市) 熊ノ前山居 (山形市) 山居 (西川町)	計画的な大集落があらわれる	三内丸山遺跡が繁栄する	楔形文字が使われる
		後期	北原2 (村山市) 高瀬山 (寒河江市) 川口 (村山市)	小山崎 (遊佐町) かつば (最上町) 砂子田 (天童市)	竪穴住居に複式炉が作られる	関東地方に貝塚があらわれる	ピラミッドが作られる
		晩期	宮の前 (村山市) 作野 (村山市) 森の原 (村山市)	下叶水 (小国町) 釜淵C (真室川町) 北柳1 (山形市)	集落が減少する	配石遺構がさかんに作られる	殷王朝がおこる
		弥生時代	北柳1・2 (山形市) 百刈田 (南陽市)	生石2 (酒田市) 庚壇 (南陽市)	米づくりがはじまる 機織りはじまる	鳥海山が噴火する(前4466年)	吉野ヶ里遺跡が繁栄する 邪馬台国が出現(230年頃) 前方後円墳がつくられる 大和の土師器が全国に広がる
AD1年 300年	古墳時代	畑田 (鶴岡市) 玉作2 (鶴岡市) 鎌倉上 (米沢市) 今塚 (山形市) 蔵増宮田 (天童市) 板橋2 (天童市) 西沼田 (天童市) 矢馳A (鶴岡市) 物見台 (中山町) 南原 (高島町) 廻り屋 (白鷹町)	比丘尼平 (米沢市) 天神森古墳 (川西町) 稲荷森古墳 (南陽市) 寶領塚古墳 (米沢市) 菅沢古墳 (山形市) 大之越古墳 (山形市) お花山古墳群 (山形市) 服部・藤治屋敷 (山形市) 梅ノ木 (山形市) 太夫小屋2・3 (川西町) 百刈田 (南陽市) 中里 (米沢市)	東北最大の円墳がつくられる	須恵器がつくれだす	隋王朝がおこる	
		小規模な古墳群がつくられる		大規模な集落があらわれる		マホメット生誕	
600年	飛鳥時代	北目古墳 (高島町) 安久津古墳群 (高島町)	羽山古墳 (高島町) 長手古墳 (米沢市)	出羽郡が建郡される(708年) 出羽郡が設けられる(709年)	聖徳太子摂政となる(593年) 十七条憲法を制定(604年)	唐王朝がおこる	
700年	奈良時代	二色根古墳 (南陽市) 不動木 (河北町) 一ノ坪 (山形市)	牛森古墳 (米沢市) 木和田窯 (米沢市) 西町田下 (米沢市)	出羽国が建国される(712年) 出羽郡が秋田村高清水岡に移転する(733年)	平城京に都をうつす(710年) 東大寺の大仏開眼(752年) 長岡京に都をうつす(784年)	李白・杜甫らが活躍	
800年		北原2 (村山市) ●清水 (川西町) ●八幡一 (川西町) 元宿北 (東根市) 八反 (村山市) 蟬田 (村山市) 松橋 (村山市) 沼袋 (東根市) 経塚森 (村山市) 田向2 (村山市) 沼田2 (村山市) 南口A (庄内町) 山田 (鶴岡市) 川前2 (山形市・中山町) 小松原窯 (山形市)	城輪堀 (酒田市) 依田 (酒田市) 八森 (酒田市) 泉森窯 (酒田市) 山海窯跡群 (酒田市) 大坪 (遊佐町) 下長橋 (遊佐町) 玉作2 (鶴岡市) 的場 (天童市) 蔵増押切 (天童市) 堀端・埴ノ上 (長井市) 四ツ塚 (河北町) 三条 (寒河江市) 落衣長者屋敷 (寒河江市) 今塚 (山形市) 三本木窯 (山形市)	大地震がおきる(850年) 鳥海山が噴火する(871年) 最上郡が二分され、最上郡と村山郡となる(886年) 十和田火山の噴火により県内にも火山灰が降る(915年)	平安京に都をうつす(794年) 坂上田村麻呂が蝦夷を平定 続日本紀ができる(797年) 胆沢城をつくる(802年)	カール大帝戴冠 楊貴妃が活躍 アラビアンナイト成立 高麗王朝がおこる 宋王朝がおこる	
1200年	鎌倉時代	●八幡一 (川西町) 大橋 (遊佐町) 沼袋 (東根市) 執行坂窯 (鶴岡市)	長表 (山形市) 永源寺 (天童市) 七日台 (鶴岡市) 蓮華寺 (鶴岡市)	斯波兼頼が山形へ入部	鎌倉に幕府をひらく(1192年)	マグナカルタ制定 チンギスハーン征西 ダンテが活躍	
1400年	室町時代	柳沢A (鶴岡市) 沼袋 (東根市) 小田島城 (東根市) 八反 (東根市)	高松II (寒河江市) 蔵増押切 (天童市) 安中坊 (西川町) 館山北館 (米沢市)	最上義光が最上家第11代当主となる(1570年)	南北朝の動乱(1336年) 室町に幕府をひらく(1338年)	明王朝がおこる ルネサンス全盛	
1500年		安土・桃山時代	出張坂城 (鶴岡市) 木の下館 (鶴岡市) ●山形城三の丸 (山形市) 稲荷山館 (米沢市)	大宝寺城 (鶴岡市) 白鳥館 (村山市) 米沢城 (米沢市) 亀ヶ崎城 (酒田市)	出羽合戦(長谷堂合戦1600年)	種子島に鉄砲伝来(1543年) 織田信長安土城築城(1576年) 豊臣秀吉の天下統一(1590年) 関ヶ原の戦い(1600年)	マゼラン世界一周 ガリレオが活躍
1600年	江戸時代	●山形城三の丸 (山形市) 双葉町 (山形市) 渋江 (山形市) 坂ノ上 (山形市)	鶴ヶ岡城 (鶴岡市) 三条 (寒河江市) 南台 (長井市) 飛泉寺跡 (小国町) 横岫橋 (西川町)	最上氏改易(1622年)	徳川家康江戸に幕府をひらく(1603年)	清王朝がおこる アメリカ独立 フランス革命 リンカーンが活躍	

